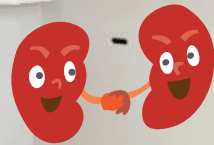


県内初で当会人間ドックに導入(無料)された、一般的な尿検査では検出できないほどのわずかな蛋白質を調べる検査です。



今年度人間ドックに新しく追加された尿中アルブミンと糖尿病の関係について集計しました!!



ほくら腎臓は、そら豆のような形をした握りこぶし大の臓器で、腰の少し上、左右ほら対象に2個あります!

臨床検査技師
大平 葵

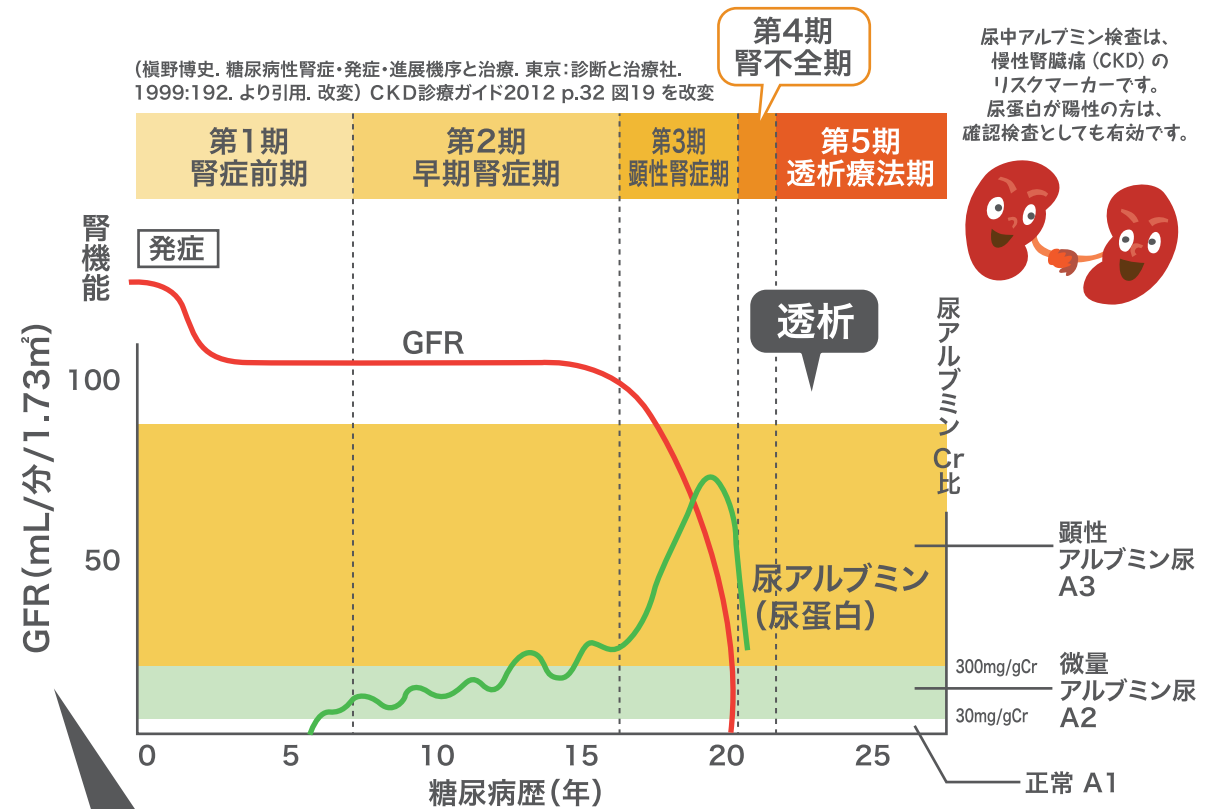
PROFILE 魚沼市出身、新潟市在住7年目。雪がほとんど降らない冬にやっと慣れてきました。趣味は楽器演奏(ピアノとクラリネット)、ドライブ、リラックマグッズを集めること。今年20周年を迎えたリラックマに癒されながら日々仕事に励んでいます。

アルブミンについて

アルブミンは、血液中に最も多く存在するタンパク質です。腎臓は血液中の老廃物などを濾過して尿を作りますが、体に必要なアルブミンは通常では尿中にほとんど排出されません。そのため、尿中にアルブミンが出現しているということは腎臓になんらかの異常があるということになります。

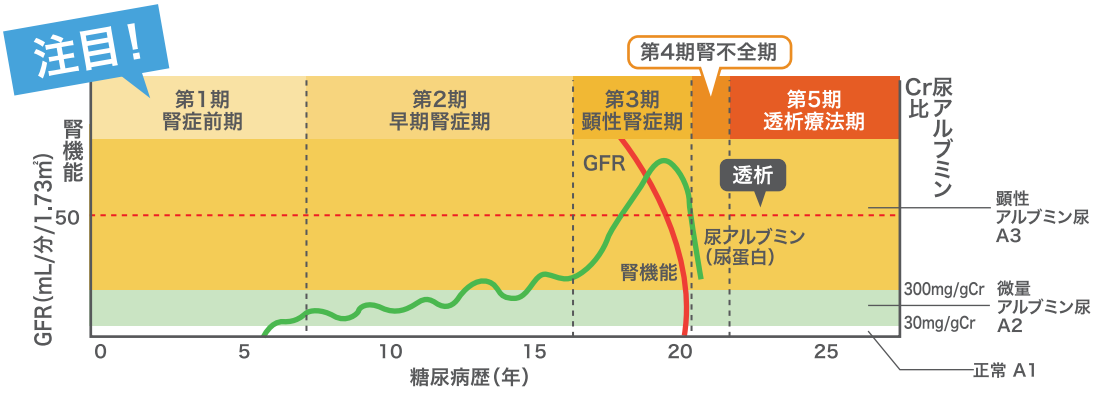
糖尿病と尿中アルブミンの関係は?

糖尿病の三大合併症には、糖尿病性神経症、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎臓病があり、「し」神経症→「め」網膜症→「じ」腎臓病の順に進行すると言われています。尿中アルブミンはそのうち糖尿病性腎臓病の予防に大切な役割を果たします。



GFR(糸球体ろ過量)とは腎臓の中にある糸球体がどれくらいの老廃物をろ過することができるかを示す値です

0~29mg/gCr	正常 A1
30~299mg/gCr	微量アルブミン尿 A2
300mg/gCr~	顕性アルブミン尿 A3



前ページの図の下の部分、メインの部分拡大した上の図のように、腎臓が異常をきたすと腎臓でせき止めきれなくなったタンパク質が尿中に排出され、障害が進むにつれ尿中に排出されるアルブミン量も増加します。

腎症2期(早期腎症期 微量アルブミン30~299mg/gCrに相当)から糖尿病の治療を開始することで腎機能改善の見込みがあります。

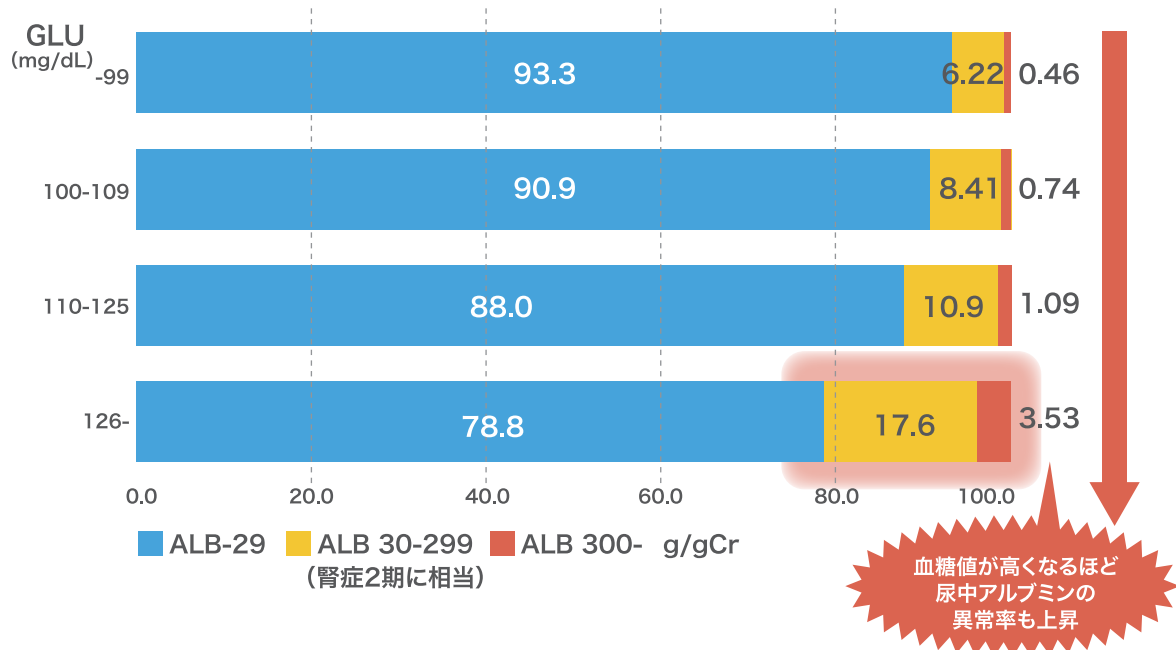
しかし、腎症3期(顕性腎症期 顕性アルブミン300mg/gCr~に相当)に入ると腎臓の障害が大きく、この時点から糖尿病治療を始めても腎障害の進行を止めるのは難しくなります。

また放置することで将来的な透析や腎移植のリスクがとて大きくなります。

集計結果をご報告します!

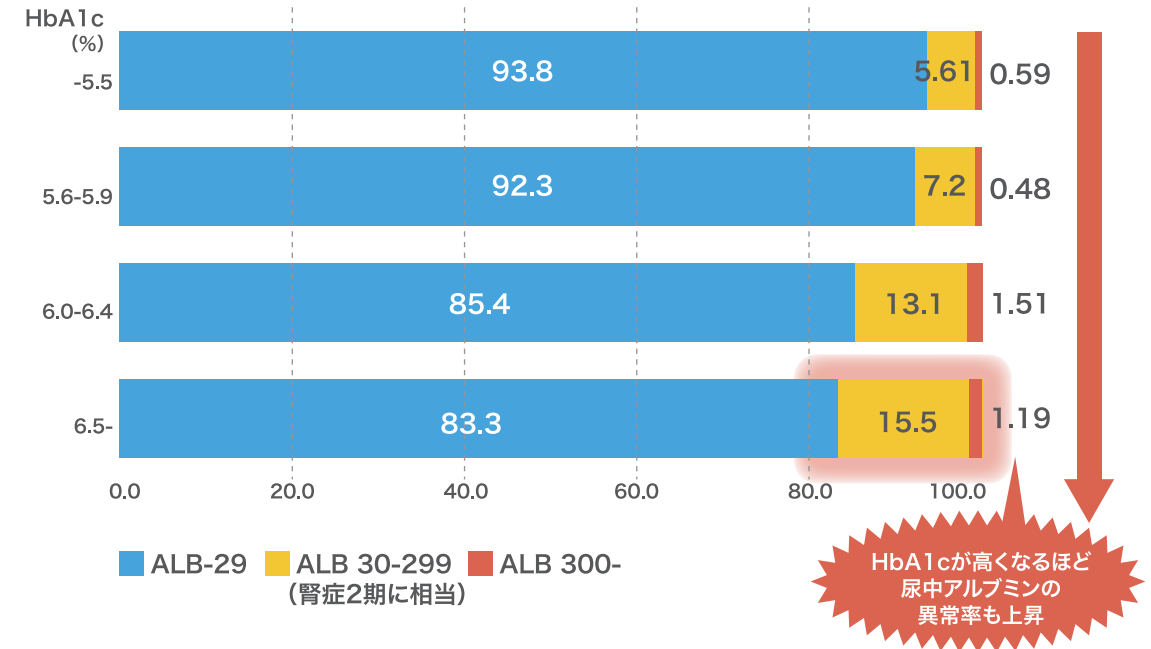
今年度4月に当会人間ドックを受診された方のうち、すでに糖尿病治療中の方228名を除いた2,921名の空腹時血糖、HbA1cと尿中アルブミンの関係について集計しましたのでご報告します。

血糖値別に見た尿中アルブミン異常率



血糖値が高くなるほど尿中アルブミンの異常率も上昇

HbA1c別に見た尿中アルブミン異常率



HbA1cが高くなるほど尿中アルブミンの異常率も上昇

血糖値、HbA1cが正常で尿中アルブミンが高値の方は、それぞれ約0.5%でした。

しかし、血糖値が高値になるほど尿中アルブミンの異常率は上昇し、糖尿病の診断基準となる空腹時血糖126mg/dL以上の状態を放置している方では21.2%、HbA1c6.5%以上を放置している方では16.7%の方がすでに腎症2期以降に相当する尿中アルブミンが出ていることが分かりました。

早期の糖尿病治療開始は服薬なしでも生活習慣の改善による回復が見込まれ、早期であれば透析開始のリスクも格段に下がります。

また、糖尿病腎症をはじめとする慢性腎臓病、その先に待ち構える透析への進行を防ぐためにも“沈黙の臓器”腎臓の小さな声に耳を傾けていただけたらと思っています。

今年度から人間ドックの受診者全員に尿中アルブミンが無料追加されています。血糖値やHbA1cが高い方は、治療を開始するとともにご自身の腎機能のチェックに活用していただきたいと願っています。また、健診時に当会のオプション検査「健診ぶらす」で尿中アルブミン検査1,100円(税込)のお申し込みができます。早期発見にお役立てください。

